



With warmest aloha

日本大学の齊藤和憲先生からバトンを引き継ぎました東邦大学の西垣敦子です。齊藤先生とは、埼玉大学の渋川雅美先生が日本大学にご在職中、同じ渋川研で切磋琢磨した同士です。日本大学生産工学部と東邦大学理学部は奇縁にも校舎が隣接しており、先生とはたまに塀越しにお願い事やお話をしたりするのですが、先生の職務に対する真摯な姿勢と暖かなお人柄から、いつもエネルギーをいただいております。

さて、現在私は昨年10月から1年間の予定で、ハワイ大学マノア校に研究留学しております。本校は、観光の中心であるワイキキビーチから、バスで20分ほどの山側に位置しており、緑溢れる130ヘクタールのキャンパスには、国際色豊かな2万人以上の学生が学んでいます。この留学が決まったとき、英語が苦手、更に引っ込み思案な性格の私が、果たして海外でやって行けるかどうか非常に不安を感じていました。日本人の根底にある和を大切にする気持ち、謙遜や謙讓の美德、これら今まで拠り所としてきた精神が、アメリカでは全く理解されず、逆に短所となりうることを危惧していたのです。そして、もしかすると私はこのような日本的な価値観を捨て、アメリカ的価値観（それが何なのかははっきり分かりませんが）を構築し直す必要があるのでは、とまで思い詰めていました。そのような中、たまたま書店で手にしたのが、藤原正彦氏の「若き数学者のアメリカ」でした。本書は、数学者である藤原氏が30代でアメリカ留学したときの記録を綴ったエッセイで、留学時に体験した心の葛藤や変化、日本とアメリカの文化の違いなどがユーモラスに、鋭く考察されています。随所に込められた、藤原氏の日本や日本人に対する激励のメッセージは、私にありのままの自分として誇りを持つ勇気を与えてくれました。そして渡米から4ヶ月、現地での同僚や友人との交流を通して、多少の言語の不自由さや価値観の違いがあっても、お互いに相手を尊重し思いやる気持ちがあれば、心の深い部分で通じ合えることを知りました。また、このような精神性こそが、ハワイで最も大切にされているアロハの精神であることを後に知りました。

ハワイ語の「Aloha（アロハ）」は、ハワイを訪れる多くの人が耳にする言葉でしょう。それは「こんにちは」「さようなら」といった日常的な挨拶にもよく使われます。辞書には、「Aloha」はlove（愛）、mercy（慈悲）、compassion（思いやり）、pity（同情）、greeting（挨拶）と書かれています。更に「Aloha」とは、相手を愛し、慈しみ、思いやり、共感する行為そのものであると示さ



れています。表題の「With warmest aloha」は、大学で友人となったMichelleからのメールの結語（和文では「敬具」等にあたる手紙の最後を締めくくる言葉）を引用したものです。こちらに来てまだ間もない頃、色々なことがうまく進まず悩んでいたときに、励まし助けてくれた彼女の優しさと大きな愛が感じられる、とても気に入っている言葉です。他にも「Fondly,」「With love and appreciation,」「Hope everything's going well for you.」「Take care, and please stay in touch.」など、結語には書いた人の性格や心情がよく表れておりとても興味深いです。もっともビジネスではシンプルに「Thanks,」や「Aloha,」、週末には「Have a good weekend,」がよく使われます。

最後に、ハワイの空にかかる虹を紹介させていただきます（写真はアパートから撮影した二重の虹：山の上部と下部）。ハワイでは雨上がりによく虹が見られます。虹はハワイのシンボルでもあり、車のナンバープレートやバスの車体、銀行のマークなど様々な所に描かれています。辛いとき、悲しいとき、嬉しいとき、この虹を見るといつも心が洗われ、幸せな気分になります。自然の不思議、生きている不思議、そしていつか確実にこの世界からいなくなることの不思議、その中で私はどう生きれば良いのか。長年考え続けて来たその問いに対し、「愛」そして「Aloha」という言葉が浮かびます。ハワイでの国籍を越えた友情を通して、今私はその答えをより確かなものとして心に刻みつつあります。

今回は、同じく渋川研出身である首都大学東京の中嶋秀先生にお願いしました。探究心と向上心に溢れ、精力力のご研究に向かわれるお姿敬重しております。どうぞ宜しくお願い致します。

〔東邦大学理学部 西垣敦子〕